

ウッドスタート(^{もくいく}木育)による木材利用推進事業

—No.51 ときがわ町—

【事業の目的】

当町の森林で育った木材で作られた玩具を1歳6か月児に贈呈し、遊びや暮らしの中に木を取り入れることで、子供も大人も木に関わる「木育」の取り組みを推進し、地域産木材の利用促進と木材関連産業の振興を目指します。

【事業の内容】

誕生祝品として、木製玩具『ときがわ木つみ木(きつみき)』(右)を、1歳6ヶ月健康診断の対象者に贈呈しています。



【事業年度】

平成28年度～

【予算額(千円)】

638千円(平成30年度)

【財源】

埼玉県市町村振興協会市町村交付金、一般財源(町)

【事業実施に至った背景・経緯】

ときがわ町は奥秩父山系を背景にした自然豊かな町で、古くから森林と人とのつながりが強く、林業・製材業・木工業・建築業などの木と生活が密着した地域です。町の面積の7割を森林が占め、スギやヒノキなどの人工林が収穫期を迎えており、公共施設整備に地域産の木材を積極的に利用しています。特に小、中学校の床、壁を内装木質化する手法は、全国でも先進的な取組として評価されており、鉄筋コンクリート(RC)造でありながら温もりのある「木の学校」にリフォームされています。

当町では、森林資源を次世代に受け継ぐために重要なことは「子供の頃から

森や木に親しみ、学び、その素晴らしさに触れながら生まれ育った故郷への愛着を深め、誇りに感じること」と考えており、木の学校づくりからさらに前進する「木育」への取組として、町の誕生から10周年となる平成28年2月1日にウッドスタート宣言(※)を行い、誕生祝い品贈呈の事業を開始しました。

※ウッドスタート：木を用いた子育て・子育て環境の整備により、木の温もりを感じながら豊かな暮らしの実現を目指す活動を行う木育の行動プランのこと。

【事業のPRポイント】

- ときがわ木つみ木は、町内に点在する巨木の1つである都幾山慈光寺の多羅葉樹(たらようじゅ)を表現した立体的な積み木で、幹・枝の部品と、12枚の葉の部品とで構成され、それぞれ町内の森林で育ったヒノキで作られています。
- 多羅葉樹は紙が無かったその昔、葉に文字を刻んで使われたことから葉書の語源と言われています。昔と今をつなぐ物語性のある木そのものをモチーフにデザインすることで、ときがわ町は今でも人と木との関係を大切にしているという思いを、未来を担う子供たちに伝えます。
- 立体的な形状と優しさを感じる曲線が相まって、初めて手にする木のおもちゃとしてのごっこ遊びから子供が自分で積み上げられるようになるまで、家庭において長い期間の遊びに用いることが可能です。
- ウッドデザイン賞2017受賞。親しみやすくかわいいデザインである点や、うまく積み上げるには慣れも必要なことから、幼少期の手先を動かす練習につながり、木へ触れる入口としてよい点を評価されました。
- ときがわ町内の公共施設には、木のおもちゃで遊ぶことのできる幼児コーナーや、木質化されて居心地のよい空間が複数設けられており、若年層の利用者が将来的な木材のエンドユーザーとなるように促しています。

【事業実績・成果・今後の展開】

- 木の学校づくりと木育の取り組み
 - 平成12年度～平成25年度 RC造校舎及び体育館の大規模改修
 - 平成23年度 町有施設の木造化、木質化に関する指針策定
 - 平成27年度 ウッドスタート宣言
 - 平成28年度 誕生祝い品「ときがわ木つみ木」贈呈開始

〔 連絡先 〕

産業観光課木材利用推進担当

0493(65)1532(直通)